

学校概要

創立 51 周年	学校長 高野 令子	副校長 泉 太郎	学期 2 学期制	児童・生徒数 701 人
学級数 一般級: 21 個別支援級: 4			主な関係校: 下瀬谷中学校	

学校教育目標

「友情わく、力わく、希望わく、毎日わくわくする学校」  
 (友情わく) <徳> 約束を守り、自分や友だちを大切にする子を育てます。  
 <開> 共に学び、さまざまな人とつながる子を育てます。  
 (力わく) <体> 命を大切に、元気な体をつくる子を育てます。  
 (希望わく) <知> めあてに向かって粘り強く挑戦する子を育てます。  
 <公> 仲間のために役に立とうとする子を育てます。

学校の特徴

- 県営・市営団地、新興住宅が混在しまだまだ宅地化が進んでいる一方、古くからの地主、昭和40年代開発時から居住し、2世代にわたって本校関係者であることから、学校に愛着のある住民も多い地域である。
- 地域活動が盛んで、見守り活動、学習ボランティアなど、保護者・地域は協力的である。
- 職員は、報告、連絡をとりながら、互いに協力して児童の指導にあたっている。
- 学習習慣を身に付けさせるために、家庭との協力が不可欠である。
- 若年層の教諭が多く、指導力の向上だけでなく、不安や悩みの解消にも組織的に対処する必要がある。

学校経営中期取組目標

- 地域・保護者と協力し、自ら進んで行動し、毎日わくわくする学校をめざします。
- ・ ペア学年活動や道徳教育を充実することで、主体性や規範意識を育てます。
- ・ 一人ひとりが自己有用感をもって楽しく学校生活を送れるようにします。
- ・ 健康安全に気を付け体力増進を図ります。
- ・ 学習の基礎基本が定着するよう、授業改善に努めます。
- ・ 個のニーズを把握し、それに応じた指導に努めます。
- ・ 校内組織を生かした児童理解、児童指導に努めます。
- ・ 地域や家庭の力を生かした教育活動に努めます。

小中一貫教育の取組

下瀬谷中学校	ブロック	下瀬谷中学校 瀬谷さくら小学校
9年間で育てる子ども像	児童・生徒指導を中心とした小中連携を密にし、地域を愛し、地域から愛される子どもを育てていきます。小中一貫カリキュラムの共通理解を深め、学習の基礎・基本の定着を図っていきます。	
自校の具体的取組	9年間の系統を意識した授業づくりを心がけます。自尊感情を高め、自信をもって主体的な活動ができるように支援します。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	①目的意識相手意識をもった学習展開を工夫する。②家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着を目指す。③言語活動を充実させ、読解力・表現力を伸ばす。	①相手意識や目的意識をもたせるために、学校の特色であるペア学年活動を活用し、学習活動を総合的に取り組んでいくようにする。②児童の課題に応じた家庭学習の内容を考え、家庭と協力していくようにする。③各教科でペア学習を取り入れ、児童の言語活動を保証するようにする。
豊かな心	①自他を大切にする心、規範意識の定着のため人権・道徳教育を充実させる。②ペア学年活動などを通し、他者とのふれあいを大切に思いやりの心を育て	①研究授業を伴った人権・道徳教育の指導力向上に努め、体験を通して、他者とのかわりや自己を見つめ、規範意識や自尊感情を高められるよう、多様な体験活動を推進する。②ペア学年活動や総合的学習の時間をはじめ、様々な活動の中で、異学年、地域の人とのふれあいを大切にする。
健やかな体	①運動の技能を育てるとともに進んで健康づくり・体力づくりに取り組もうとする態度を育てる。②心身共に健康で安全な生活を送れるよう、健康教育を推進す	①一校一実践として、「わくわく持久走」に取り組む。また、短縄では音楽に合わせて跳んだり、長縄の集会を開いたりして体力向上を図る。②お互いに誘い合いながら外に遊びへ出ることを奨励し、心身共に健康で明るい生活を送れるようにする。健康安全の日の放送を通じて、自らの健康に関心をもち、実践する意欲を育てる。
キャリア教育	①自己決定力・自己選択力を育て自信をもたせることで自尊感情を養う。②あいさつや礼儀を大切にする心を育てる。	①教師からの提案を基に、児童意見交流をしながら選択し、決定する機会を多く設定していくようにする。また、児童自身で考え実践したことを認め、価値付けしていくことを繰り返し、児童に達成感を味わわせるようにする。②たくさんの人との関わりをもつ機会を増やし、人とつながるよさを実感させ、あいさつや礼儀正しくする必要性を体感させるようにする。
特別支援教育	①個のニーズに応じた教育活動を充実させる②教室や授業のユニバーサルデザイン化を推進し、児童の安心感を高める。③幼保・中との連携をとる。	①コンサルテーションを行って、支援の在り方を研修する。特別支援教室の振り返りをすすめる。②教室の前面をすっきりさせるなど、学習に集中できる環境を作る。誰にでも分かる授業のために、学習の流れが見える板書に努める。③教科担任制の取組、中学校教諭による授業を受ける。幼保との情報交換や連携をもとに、スタートカリキュラムの充実を図る。
児童指導	①専任を中心とした組織的な児童理解と児童指導を推進する。②YPアセスメント等を活用し、児童の実態を共通理解し、個に応じた計画的な児童指導をす	①専任を中心とした組織的な対応、情報の共有化に努め、問題行動に迅速に対応する。早期発見、早期対応、未然防止に努める②児童のニーズに合わせた支援が多くの職員でできるように、アセスメントシート・個別の指導計画・個別の教育計画を活用する。トラブル未然防止のためのYPアセスメントシートでありたい。
地域との連携	①授業の中に積極的に地域の力を取り入れる。②児童・職員の地域行事への参加を奨励する。③地域への情報発信を充実させる。	①5年生総合(米作り)、3年生総合(昔の暮らし)、クラブボランティアなど、地域の力を取り入れる。②児童・職員のふるさと祭りなどの地域行事への参加を奨励する。③学校だよりなどをホームページで更新するなど、地域への情報発信に努める。

人材育成・組織運営	①重点研・学年研を通してわかる授業を目指した授業改善に取り組む。②メンターチームや学年組織を充実させ、経験の浅い職員に対する支援をする。	①重点研では学級づくりについて取り組むにあたり、各学級の取組を具体的に見たり、聞いたりするような関係を作り、研究を積み重ねていくようにする。また、学年研では学年での教材研究の時間を確保していくように意識する。②授業参観を積極的に行い、意見を伝え合うようにする。また、具体的な取組を提案し、一緒に実践し、検証していく。
担当	研究部(研修担当・教務)	